



2016年3月21日

国際森林製紙団体協議会（ICFPA）

国際森林デーを迎えて

国際森林製紙団体協議会（ICFPA）は本日3月21日に迎える国連国際森林デーをお祝いします。ICFPAは世界の林産品産業が、森林がもたらす環境・社会・経済面の便益を現在並びに将来の世代が享受できるよう持続可能な発展に貢献していることをご紹介できることを光栄に思います。

森林は地球上の生命に欠かせない存在です。森林はきれいな空気や水の提供、そして気候を調整する機能を持っています。また、再生可能でリサイクル可能な資源である森林は、食糧や燃料、繊維、医薬品など生活必需品に対する需要を満たすために重要な役割を担っています。

林産品産業は再生可能という特長を有した産業です。ICFPA会員団体は持続可能な森林経営に力を入れて取り組んでいます。ICFPA会員団体合計で約3億ヘクタールの森林認証林を有し、林産品産業が利用する木材繊維の大部分はそれら認証林から供給されています。

ICFPA 理事長のエリザベス・デ・カルバヘスは次のようにコメントしています。「ベストプラクティスに則り正しく管理された全て種類の森林は、人類の福利と発展に不可欠な製品やサービスの供給に大きく貢献します。私たち林産品産業は、気候変動緩和だけでなく、社会的包摂にも寄与しています」

ICFPAが2015年に発表した第5回サステナビリティ・プログレス・レポートでは、世界の林産品産業の主要なサステナビリティ指標における進捗状況やグリーンエコノミーへの貢献について紹介しています。その中で、温室効果ガス排出原単位の削減、持続可能森林経営の拡大、古紙リサイクル率の上昇が明らかになっています。

ICFPAは世界の30以上の国・地域の木材・製紙業界団体によって構成されている国際業界団体で、会員合計で世界の紙・板紙生産量の約90%、木材生産量の60%を占めています。

世界の林産品産業のサステナビリティ活動の詳細についてはICFPAのウェブサイト (www.icfpa.org) をご覧ください。